

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年03月25日

計画の名称	名古屋市における交通の安全確保と円滑化を図る総合的な踏切道の対策（防災・安全）													
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	名古屋市													
計画の目標	踏切対策を総合的に推進することにより、踏切事故のない安全と円滑な道路環境の構築を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		9,464	A	9,464	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（H28当初）		（H32末）
1	歩行者等踏切交通遮断量の削減			
	歩行者等踏切交通遮断量 （踏切交通遮断量）＝（歩行者・自転車交通量）×（1日あたり踏切遮断時間）	76296人・時／日	人・時／日	0人・時／日
2	市内における緊急対策踏切要件に該当する踏切の減少			
	市内における緊急対策踏切要件に該当する踏切数	17か所	か所	13か所

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	名古屋市	直接	名古屋市	S街路	改築	万場藤前線（近鉄名古屋 線高架化事業）	鉄道高架化 L=0.8km	名古屋市	■	■	■	■		4,146		-
	A01-002	街路	一般	名古屋市	直接	名古屋市	S街路	改築	守山本通線（名鉄瀬戸線 高架化事業）	鉄道高架化 L=1.9km	名古屋市	■	■	■	■	■	5,318		-
											小計						9,464		
											合計						9,464		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
名古屋市	令和3年8月～10月
	公表の方法
	名古屋市HPにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	都市計画道路万場藤前線（近鉄名古屋線高架化事業）が令和元年度末で完了したことに伴い、歩行者等踏切交通遮断量については、24,763人・時/日を削減した。市内における緊急対策踏切要件に該当する踏切については、同事業の完了によって2か所の開かずの踏切が除却された。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	都計道路の整備や鉄道の高架化に伴い、緊急車両の到着時間の短縮、消火活動の効率が向上、鉄道高架により見通しが良くなったことによる安全性の向上、バスルート変更による利便性の向上など都市の活性化に寄与した。

○特記事項（今後の方針等）

国土交通省では、令和2年度まで「道路と鉄道の立体交差事業」は、『社会資本整備総合交付金』で地方への支援を実施してきたが、交通事故の防止と駅周辺の歩行者等の交通利便性の確保を重点的に進めていくため、計画的かつ集中的に支援する『踏切道改良計画事業補助制度』を令和3年度に創設した。本市としても、国の重点的な支援を活用し、事業を着実に推進していくため、令和3年度からこの制度への移行を図っている。

今後も確実な事業進捗を図るとともに、鉄道事業者と協力・連携し総合的な踏切対策を推進することにより、踏切事故のない安全と円滑な道路環境の構築を目指していく。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	歩行者等踏切交通遮断量		
	最 終 目標値	0人・時 / 日	都市計画道路万場藤前線（近鉄名古屋線高架化事業）の完了に伴い3か所の踏切を除却し、24,763人・時 / 日の歩行者等踏切交通遮断量を削減した。一方、都市計画道路守山本通線（名鉄瀬戸線高架化事業）は、高架工事の施工方法の変更などにより時間を要し、計画期間内には踏切の除却に至らなかった。同期間に上下線を仮線に切り替えとともに上り線の高架工事に着手し、令和2年度末には、上り線の高架橋本体土木工事が完了しており、今後も早期に目標が達成できるよう進捗を図っていく。
	最 終 実績値	51533人・時 / 日	
2	市内における緊急対策踏切要件に該当する踏切数		
	最 終 目標値	13か所	都市計画道路万場藤前線（近鉄名古屋線高架化事業）の完了に伴い2か所の開かずの踏切を除却した。また、近鉄名古屋線においては、この事業の完了に伴い電車の徐行が解消されたことやダイヤの改正などにより、開かずの踏切の2か所を解消した。その他、市単独事業により、歩道が狭隘な踏切の1か所を対策した結果、合計5か所の緊急対策踏切を減少させることができた。
	最 終 実績値	12か所	